

2021年4月1日発行（春号）

No.67

会報 いづこうげん

目次

親和会会員だより	2～3
自動運転実証実験	4
メガソーラー建設問題	5
部会報告	6～7
親和会情報	8

城ヶ崎海岸魚見小屋



伊豆高原親和会

静岡県伊東市八幡野1208-95 TEL(0557) 53-1122 FAX(0557) 54-4222

親和会会員だより

「伊豆こそ我が人生」を読んで

この度、新しく発刊された一冊の本を手にした。タイトルは「伊豆こそ我が人生・八十路からの新たな旅立ち」です。題名が、私の眼の中に驚きをもって飛び込んできました。帯にも「悠々自適の老後はあるか。移住で幸せになれるのか。」

まさに私が臆げながらに感じていたことだったからです。

へ深まり行く伊豆への想い

著者の菅卓二さんは、伊豆高原に32年前に家を建て本格的に伊豆生活を始めてから20年近くになります。まさに、伊豆の良さを実感するのには十分な時間だったことでしょう！

本を読んでいるうちだんだんと伊豆に溶け込んでゆく菅さんの想い：コナラやヤマツツジ、エビネランやヤマユリなど自生種の雑木や山野草、蝶やトンボ・セミなどの千客万来の昆虫たち、シジュウカラやジョビタキ・ウグイスなどの野鳥たちに囲まれた伊豆ライフの素晴らしさが伝わってきました。そして年齢を問わ



ない沢山の友人との出会い・ふれあいが、一層充実したものとなつていると感じられます。

へ自由気ままな旅

旅路にくつろぐ心

伊豆をベースにしてオーストラリアやヨーロッパなど世界中をレンタカーで巡ったり、へんろ道や塩の道・中山道などを歩き通し、まとめ上げ、思わず引き込まれてしまう包容力溢れる文章で、出版までこぎつける実行力、好奇心をもって心の赴くままに生きている菅さんにとって「伊豆こそ」と言わしめる伊豆は、心より暖かく迎えてくれたことでしょう！



へ伊豆半島は日本のほぼ中央に

位置するのに交通不便

伊豆半島は険阻な地形で、片側1車線道路が多く高速道路が発達したほかの地方に比べて交通不便だと思われるが、それが逆に伊豆の良さとしてプラスになっている。平地が少なく一次産業と観光業のみで、人口流出が続き、高齢化も進んで、過疎化が顕著に見られるようになった。しかし豊かな海岸線、素晴らしい景観・あちこちに溢れ出る温泉、人間と自然とが共存する桃源郷と言われるのもうなずけます。高速道路のない伊東、高速道路のいらない伊東、片側2車線道路をなくし歩道を広げ、歩いて楽しい道路を作っていく、車優先という意識を払拭させる必要があります。

車が制限速度を守りゆっくり走れば歩行者・自転車も安心して通行ができ、すれ違う人と人が笑顔で交わすことが出来ます。ぜひ人に優しい伊東が定着出来ればと願っています。

へ特異な伊豆半島の成り立ち

日本列島の成り立ちを見てみると、大陸から別れ巨大なユーラシアプレートと太平洋プレートとの間にフリッピングプレートの先端に乗って突き刺さった伊豆半島、沢山の火山を擁して特異な、魅力溢れる景観を

作り出したのです。その中でも私たちの住む伊豆高原は、大室山をはじめとする伊豆東部火山群から流れ出した溶岩台地の上に広がっています。遠くから伊豆高原を眺めると、大室山を頂点にしてなだらかな地形が広がっていて、まさに高原と云う名にふさわしい地形となっています。

海岸線は、温暖な黒潮に洗われています。20〜30メートルの断崖が続いています。海岸線から200メートルは国立公園の特別保護地域に指定され日本有数の照葉樹林帯が広がっています。この台地は岩だらけで水もなく農耕に適さなかったために原野として残り、戦後の高度成長期にデベロPPERにより別荘分譲地として開発されたのです。



へ国立公園に住む喜び

国立公園の規制で建蔽率・高さの制限があり、緑が多く残され自然豊かな環境が維持されています。一年に渡って沢山の花々が咲き、四季の変化が身近に感じられます。このほど、地区住民へ住環境に対してのアンケート調査を実施致しました。そのほとんどが「満足している」との回答です。ただ一つの懸念は、車が利用できるなくなった時の利便性の確保です。

先ごろ、伊豆高原駅周辺で自動運転バスのテストが始まりました。一日も早い実用化が求められています。オンライン診療やオンラインショッピングがより充実したものにできれば、まさに理想的住環境は現実のものとなります。



イソヒヨドリ（伊東市の市鳥）

へ人生下り坂が一番

緩やかな下り坂は、登りに比べて体重移動が楽で眺望も開け、快適に歩くことが出来ます。七十台後半に入り八十路が近づくにつれ、来た道を振り返ることが多くなりました。聞こえてくる

美空ひばりの「川の流れるように」

♪ 知らず 知らず 歩いて来た

細く 長い この道

振り返れば 遥か遠く

故郷が 見える

五木ひろしの「山河」

♪ 人は皆 山河に生まれ

抱かれ 挑み

人は皆 山河を信じ 和み 愛す

森進一の「昭和・平成・令和を生きる」

♪ ひとつ ひとつの 時代を越えて

長い人生 生きてきた

浮世の風にさまよいながら

など、切々と歌う歌詞を聞いている

と心が打たれ身に沁みます。

菅さんの言われるように、これからは

“緩やかな下り坂が一番”と思えるような日々であることを願っています。

菅さんは本の中で、偶然と必然との間に“ご縁”があるとも書かれています。そう言われて振り返ってみると、人生の節目・節目でご縁の存

へ偶然と必然の間

菅さんは本の中で、偶然と必然との間に“ご縁”があるとも書かれています。そう言われて振り返ってみると、人生の節目・節目でご縁の存

在が重要な役割を持っていると感じてきました。出会いと別れ・・・偶然・必然では解決しない数々の出来事があった事が想い起こされます。

へ私と伊豆との出会い

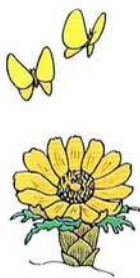
私の人生を振り返っても、伊豆との出会いはまさに“ご縁”でした。

卒業して伊豆への旅立ちの日、子供の頃横浜港でよく見られた南米への移民の旅立ち、五色のテープで万感の想い、涙・涙の船出シーンよろしく、友人たちが横浜駅の東海道線下りホームで開いた窓から五色のテープで見送ってくれました。みんなが東京へと就職する中、ひとり都落ちしていく私を哀れと思って見送ってくれたのです。哀しさをこらえて窓の外を見ているうちに、熱海を過ぎ伊東に近くなると景色が違ってきました。海が広がり、空の青さと木々の緑が美しく輝いて見えたのです。それで何とか伊豆で生きて行ける自信が湧いてきたことを思い出します。

この本を読み終えて、これからの人生をどう生きるのか、いろいろと考えさせられました。

25次

丹羽 忠昭



伊豆高原を海から見る アトリエ・ロッキーさん撮影

伊豆高原で始まった自動運転の実証実験

昨年十二月に、伊豆高原駅周辺で自動運転カーの運用実験が行われました。現在、日本各地で自動運転の実証実験が行われており、伊豆高原でもようやく始まったという感じがします。

親和会としては、伊豆高原での高齢化の進展と交通利便性の問題を早くから取り上げ、アンケート調査を実施し検討を進めてきています。同時に伊東市とも話し合いを進めています。私たちが快適な伊豆高原ライフを過ごすためには、後述するように交通利便性は身近で切実な問題でもあります、こうした問題も含め、今回の自動運転の実証実験をご紹介します。

へ親和会アンケートからへ

二〇一六年に親和会は定住者の会員を対象とする「伊豆高原に暮らしてみても」アンケートを実施しました。アンケート結果の詳細は二〇一七年四月発行の「会報いづこうげん」五九号で報告しておりますが、ここでは「生活の足（交通・車）」という項目から、伊豆高原の交通利便性に関する問題を検証してみたいと思います。

多くの会員から出されている意見

は、「車がないと不便」「高齢化に伴い交通難民になる」「公共交通機関の便が悪い（便数が非常に少ない）」ということ、日常生活に大きな影響が出てくるという指摘でした。

一方では、「豊かな自然」「温暖な気候」「地元産の新鮮な食材に恵まれている」「静かな環境と広いスペース」「地震に強い」などという利点を挙げて、伊豆高原が非常に住みやすい環境を有していることも指摘されています。

しかし、環境がいかに良くても生活を維持する上での買い物やイベント・スポーツ・旅行等を楽しむこと、また病院に行くことなどが困難であれば、豊かな生活環境も宝の持ち腐れになってしまいます。交通利便性は、豊かな生活環境を生かすためには欠くことのできない要件です。

アンケートではこの解決策についても聞いていますが、伊東市中心部との往来も含む循環バスや地域内の循環バスの導入、乗り合いタクシーやワンコインタクシーの導入、公共交通機関の充実というような方策を求める声が出されていました。いずれも大きな投資や費用補助が必要になると考えられ、親和会単独では実現することはできません。伊豆高原全体で考え、行政と一



緒に対処することが必要な課題です。またバスやタクシーなどの公共交通手段を運転する人の不足という問題もあります。しかし、この問題乗り越えないと、快適な伊豆高原ライフを維持していくことはできません。へまずは自動運転の実証実験をへ

人手不足の中で、しかも都会とは違って交通手段の利用者が少ない中で、経済性と利便性を両立させることのできる公共的な地域内交通は、少人数向きの自動車による自動運転システムが最も適していることは間違いないでしょう。

自動運転システムの建設・運用については、利用者負担だけではなく、国や県、市による財政支援も必要です。そのためには官民一体となった自動運転システムの構築を図っていかねばなりません。

今回、伊東市の協力で伊豆急ホールディングが伊豆高原で行ったのは、「自動運転モビリティ実証実験」です。伊豆高原駅に自動運転のコントロールセンターを設置し、ディスプレイミュージアムを経て伊豆高原駅やんも口と桜並木口を結ぶルートに、最高速度一九kmで自動運転バス「NCCO いすきゅん号」（定員六名）を走らせました。このルートには親和会管理道路が含まれます。バスに乗るにはスマホや駅に設置したTV配車システムから予約します。今回の実験は、自動運転だけではなく、コントロールセンターから遠隔操縦する技術の検証も行われています。自動運転カーを、需要に応じて呼び出すオンデマンド方式で運行し、安全性など、サービスの実用化に向けた課題の検証を行いました。



伊豆守ろう！伊豆高原、美しい海と山を

いま、伊豆高原メガソーラー建設は・・・

昨年九月の伊東市議会での一般質問に対する伊東市の答弁によると、一昨年（二〇一九年）三月以降、事業地において、太陽光発電所建設に繋がる工事は行われていないということです。昨年九月以降も工事車両が入っていない状況ですので、もう丸二年にわたって工事が全く行われていないようです。

一方で、伊豆高原メガソーラー建設に係る裁判ですが、私たち地域住民が伊東市に対して起こしている宅地造成の許可処分の取消請求訴訟及び無効確認訴訟と事業者に対して起こしている建設差止め訴訟は、現在も裁判が継続しています。また、事業者が伊東市に対して起こしている河川占用不許可処分の取消訴訟については、三月十七日に東京高裁の判決が出されることになっています。

一審の静岡地裁では事業者が勝訴していますが、河川占用不許可処分が取消されたとしても、河川占用許可申請が出された状態に戻るだけなので、直ちに工事が再開できるということにはなりません。判決の内容によつては改めて不許可処分を下すということもあり得ます。

いずれにせよ、宅地造成許可を取り消してしまえば工事はできなくなります。静岡地裁での宅地造成許可の取消及び無効確認訴訟で勝訴することを目指して全力を傾注していきます。

裁判は継続していきますが、その間に、中途半端に土地造成工事に手を付けてしまった事業地が二年も放置されているため、防災上非常に危険な状況に至ることが強く懸念されます。



2019.9池地区での土砂崩れによる水害



事業地入口付近の仮沈砂地の法面の亀裂

現場写真にあるように、事業地入り口付近の仮沈砂池の造成工事によって作られた法面を保護するブルーシートがはがれ、法面に亀裂が走っているのが確認できます。亀裂に水が浸透することで表層崩壊の発生が懸念されます。表層崩壊が起きた場合は、崩れた土砂が工事現場下の八幡野川に流入して川を堰き止め、水災が発生することは間違いないでしょう。二〇一九年九月の台風時に池地区で発生した水災被害が再現されることになります。

また岡沢から土砂や伐採木が八幡野川に流出することが懸念されていますが、同時に、現場写真にあるように工事途中で放置された岡沢周辺の造成法面や作業用道路が崩れ、その土砂が岡沢から八幡野川に流入し、流入地点で八幡野川をせき止め、水害を発生させてしまうことも懸念されます。

土地造成の許可条件には防災措置をきちんと行うことが求められているので、許可権者である伊東市が事業地を实地調査して、防災工事が必要な箇所を把握し、事業者に対して防災工事を実施するよう指導することが重要です。岡沢や仮沈砂池周辺のみならず、事業地全体にわたって調査することが必要です。



2021.2岡沢脇の作業用道路が崩れている

親和会部会報告

総務部会から

役員会報告

(二〇二〇年七月～十二月の主な事項)

◎審議事項

- 伊東市と連携しての空き家対策
- ヤスデの駆除と蔓延防止策
- 道路補修の実施
- カーブミラーと街路灯の新設
- 浸透地等の樹木伐採工事
- 会費未納者対策
- ゴミステーションの再設置

(第二地区二か所)

○ゴミステーションの設置看板購入

(取り換え用・十五か所分)

- はみ出し樹木の管理
- 消火栓の取り換え
- 業務委託契約の更新
- 親和会電子掲示板の設置

◎報告事項

- 各地区連絡会報告
- 各部会活動報告
- 自主防災会活動内容
- 伊豆高原地域自治会連合会及び伊豆高原地域創生協議会活動報告
- 親和会会費納入状況及び月次収支報告
- 事務局活動報告



伊豆高原親和会総会2020年度写真

2021年度 親和会総会のご案内

本年度の親和会総会開催は次の通りです。多くの会員の皆様のご出席をお待ちしておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加人数が制限されることもありますので、ご了承ください。

日時：2021年5月29日（土）
午後1時30分より

場所：八幡野コミュニティセンター
3階会議室

新型コロナウイルス感染防止のため日程の変更を余儀なくされた場合は、ハガキにて日程変更のご連絡を差し上げますが、同時に電子掲示板にも掲載しますので、ご参照下さい。

*会費納入のお願い

親和会会員各位には、毎年会費納入にご協力いただき厚く御礼申し上げます。昨年の総会でご承認いただきましたように、今年度より会費が改訂されておりますのでよろしくお願い致します。（同封の改訂会費表をご覧ください）

ご存知の通り、親和会は会員皆様の会費によりすべて運営され、当地区内の道路及び側溝の

補修、浸透地の維持管理、街路灯新設・整備、ごみ処分等、より良い住環境を整備するために使用されております。

親和会規約にありますように、会員の義務として、また会員の公平性を期するためにも、会費納入へのご協力をお願いいたします。



道路部会から

二〇二一年度の道路補修は、昨年と同規模の工事を行うために必要な予算を組んでいます。伊東市から道路補修に対する費用補助があります

が、今年は年間で一四〇万円に増額されています。工事計画の策定や決定については昨年と同様のスケジュールで進めます。

親和会内の道路は建設以降大半が五〇年以上を経過しており、最近では親和会の総予算の三割程度を補修費用に充てています。それでも一般的な道路補修のペースには到底追いつきませんので、レミファルトによる簡易補修を適宜行いながら、道路

の傷みについての地区間の公平性を確保した上で、緊急性を要するところを優先しながら、できるだけ会員の要望に応えられるように、工事計画を策定していきます。

なるべく早期に工事を発注できるよう、七月の地区連絡会では各地区の要望をまとめていただくようお願いいたします。最終的には九月の役員会で道路補修案を審議し、十月以降工事を行っていく予定です。

また、側溝の傷みが目立ってきており、事務所の方でも個別に対処していますが、業者に発注しなければならぬ工事が増加しているため、これまで通り道路予算の一定額を割いて対処していきます。

環境美化部会から

二〇二〇年度の浸透池浚渫工事は、雨水流入の多い二箇所の浚渫工事を伊東市が実施することになり、合計三箇所での浚渫費用を伊東市が負担することになりました。親和会が行った浸透池浚渫工事は一箇所となり、浚渫費用を削減できました。この結果、二〇二〇年度の浸透池・下水関連費の主な使途は、樹木伐採・整備とヤスデ駆除のための薬剤散布及び会員配布用の薬剤の購入となっています。



二〇二一年度は、浸透池の機能維持に必要な浚渫工事に加え、浸透池の樹木については、通行の危険防止およびヤスデ・日照等の環境対策のため、樹木伐採・整備を実施していきます。そのため各地区から作業対象となる浸透池の候補をあげてもらい、樹木の大形化やナラ枯れ病等の状況から次年度への持ち越しが危惧される場所もありますが、危険防止と環境対策の必要性の高いものから順に予算の範囲内で実施する予定です。

親和会【夢プロジェクト】

親和会夢プロジェクトは「住み続けたい伊豆高原」創りに向けた様々な方策を検討しています。今年度も、歌う会「夢の和」、夢サポ（親和会敬老の集い）、日帰りバスツアーを実施していく予定ですが、現在、新型コロナウイルス感染拡大対策のため、実施を見合わせています。実施の有無については、最終的に伊東市の対策に従って決定します。これについては親和会の電子掲示板や親和会ニュース等でお知らせいたします。



夢サポ「親和会敬老の集い」

また、伊東市のまちづくり政策や移住定住促進政策等についても、市長との懇談会などの場を通じて伊東市に意見反映させていきます。

はみ出し樹木 剪定のお願ひ

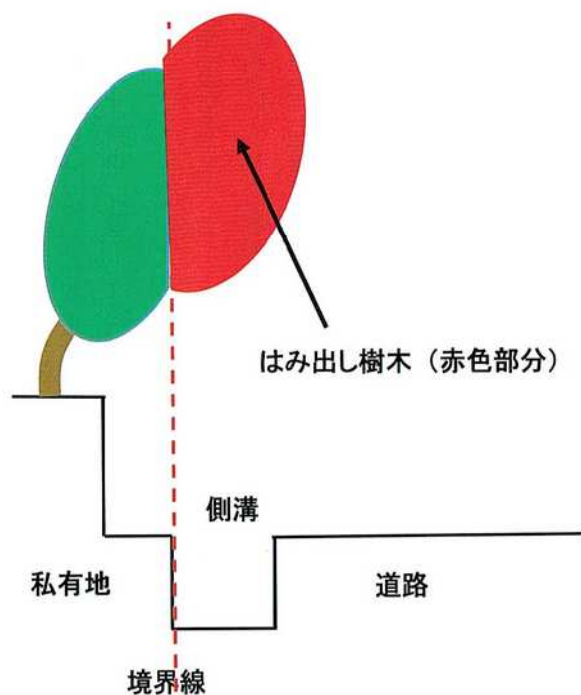
伊豆高原分譲地も開発以来数十年を経て、且つては背丈の低かった木々が年々成長して大きく茂ってきています。近年、木々の幹や枝が道路に張り出して車の往来に支障を来している場所が分譲地内に数多く見られるようになってきています。

六メートル道路においても、とりわけ四メートル道路では、道路にはみ出した樹木や雑草が道路幅を実質的に狭め、車はどうしても中央寄りを走らざるを得ず、交互通行を不能にしています。さらに、車体を木々の枝が傷つけたとの苦情も増えています。

また道路側でなくても隣接した私有地の境界を幹や枝が越えた場合には、お隣の方々の迷惑になります。また道路側でなくても隣接した私有地の境界を幹や枝が越えた場合には、お隣の方々の迷惑になります。また道路側でなくても隣接した私有地の境界を幹や枝が越えた場合には、お隣の方々の迷惑になります。

また道路側でなくても隣接した私有地の境界を幹や枝が越えた場合には、お隣の方々の迷惑になります。また道路側でなくても隣接した私有地の境界を幹や枝が越えた場合には、お隣の方々の迷惑になります。

道路側への「はみ出し樹木」の概念



交通安全のためにも、またお互いに迷惑をかけず快適ライフの伊豆高原分譲地を維持発展させていくためにも、ぜひ「はみ出し樹木の剪定」をお願いします。

人の輪で伊豆の暮らしを豊かに

親和会では、会員の自主運営で、趣味を生かした会員の交流の場づくりを支援しています。現在は左記に掲げた会が定例的に開催されています。多くの会員のご参加をお待ちしています。

現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催になったり、開催場所が変更になったり、休止したりしている会がありますので、念のため事前に親和会ニュース等で毎月の実施状況をご確認ください。

☆絵手紙の会 毎月第2水曜日 午後一時半～

☆小物作りの会 毎月第2月曜日 午前十時～

☆パソコンサークル 毎月第1火曜日 午後一時半～

☆英会話サロン 毎月第1・第3月曜日午前十時～

☆のんちゃんのいきいき呼吸練功体操

毎月第2金曜日 午前十時～

☆親和会囲碁クラブ

毎月第1・第2・第4火曜日 午前9時半～

☆グラウンド・ゴルフ会 毎月第1・第4火曜日午前十時～

東大室G・Gコースにて

このほかに、毎月第三木曜日に親和会ゴルフ愛好会のコンペが催されています。また、不定期ですが、伊豆高原の自然を楽しみ歴史を訪ねる「歩こう会」が開催されています。

今年度の自主防災活動

昨年暮れの地域防災訓練は、集合訓練を中止し、個人でできるOK旗の掲示とシェイクアウト訓練に絞って実施しました。今年度の自主防災活動は、新型コロナウイルス感染拡大状況によって実施方法が変わりますが、九月一日の総合防災訓練と十二月五日の地域防災訓練が予定されています。

各地区連絡会開催（予定）のお知らせ

今年の夏の地区連絡会の開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として大きな会場を確保しなければなりませんので、八幡野コミュニティセンター三階の大会議室を利用することとします。そのため開催日程が例年とは異なります。

七月の夏休みに入った最初の土曜日とその次の土曜日を予定します。

八幡野コミュニティセンターの会議室の予約は五月に行いますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては日程及び場所が変更されることがありますので、詳細は、七月初めの親和会電子掲示板又は親和会ニュース七月号でご確認ください。

地区によって開催日と開始時刻が異なりますのでご注意ください。

七月二十四日（土）の開催は

第一地区：午前十時～

第二地区：午後一時三十分～

七月三十一日（土）の開催は

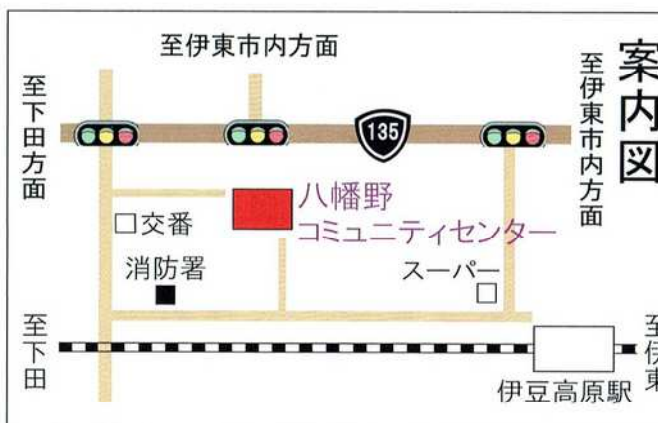
第三地区：午前十時～

第四地区：午後一時～

年末餅つき大会開催について

年末行事として近年定着した餅つき大会ですが、残念ながら昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく中止いたしました。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大状況にもよりますが、十二月十一日（土）に開催する予定です。会員の皆様が楽しく交流できる場としての餅つき大会を目指して、役員・スタッフ一同頑張っていきます。

案内図



昨年9月から開設した電子掲示板のQRコードとURLは下記の通りです。



伊豆高原
親和会
電子掲示板

<https://izukogen-shinwakai.org/>

（広報部会）編集委員

市原 輝夫 高橋 亘
徳本 政幸 牧島 珪
山田 華恵

事務局

赤堀 井端
(50音順)